

【1：地域神社を核としての更なる街お越し（防災活動までに発展させたい）】

12024年度は、鹿児島県主催の下記3講座を受講終了



- 1. 時代や考えの異なる多世代、一つのイベントに集まる
- 2. 伝統文化イベント 発展させたい
- 3. ふるさと・地域に 愛着をもてる
- 4. 子供が参加 できる・楽しめる・学びやすい
- 5. 高齢者 防災活動が得意な人が少ない（防災活動）
- 6. 防災意識から 防災行動になってほしい（防災活動）
- 7. 防災活動から 防災意識になってほしい（防災活動）
- 8. 防災活動から 防災意識になってほしい（防災活動）



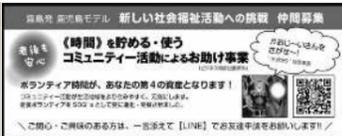
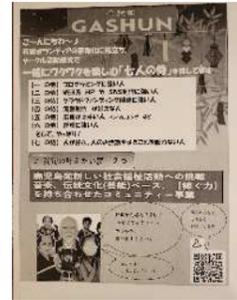
2025/2から、『街お越し活動の見える化』に着手
↓
【広瀬地区&神社】の情報誌（H/P）の制作に向けて学習中



【2：霧島発、鹿児島モデル、『労働』時間を貯める！使える！住民相互の支え合い事業』の事業化】

広報活動（イベント時のチラシ配布・パンフレットに掲載：2024/7・18）核となる仲間募集

内閣府 地方創生推進室主催の下記コンテストに本事業化案で応募（2024/9）



分析対象地域の課題（要約）
全国的に人口減少からの高齢化が課題となっている。霧島市の『すこやか支えあいプラン2021』『向、プラン2024』を見ると、ハード面は充実させてきているが、ソフト面が未だ足りていないと感じる。『住み慣れた地域で住み続けられること』を霧島市が目指していることや、母の介護の身体移りや地域づくり活動の学びから、今の福祉が【支えあ】と【支えられる】に二極化されており、これこそが最大の課題だと考えた。

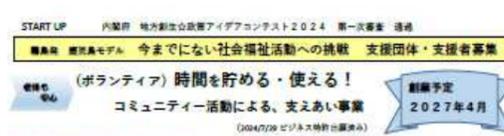
分析内容（要約）
霧島市の既存の福祉サービスを分析していくと、先ほどの二極化を解決する糸口が見つからないように思える。また、市道のボランティア活動において、変換であればその対価が【通貨（お金）】の場合、ボランティアへの参加意欲が高揚しない。それは、【支えあ】に大きなメリットを感じないからである。このことから、ボランティアの対価が【通貨（お金）】でなく、新しい概念を用いての提案を考えた。

政策アイデア（要約）
【支えあ】と【支えられる】の立場がいつでも逆転できることを主軸に、分断内容から新しい概念を【時間】とした。その結果、既存の福祉サービスの問題点をすべて解決できただけでなく、事業者×行政×市民の三者に【Win・Win・Win】の効果をもたらす事が明らかになった。またこの新事業は、高齢者のみならず、困りごとを抱えている人全てに適用でき、霧島市以外の行政にも適用できる画期的な施策と確信し、応募する。

政策アイデアの分析に活用したサービス（仮称回答可）
人口マップ（RFSAS）、商業・福祉マップ（RFSAS）、活用事例チャットボット（RFSAS Portal）

政策アイデア資料ファイル（PDF）
今までにない概念とシステムによるSDG'sな【支えあ】事業.pdf

協働 / 支援（協賛） 団体の募集活動（2024/12～今に至る）



【行政】の立場から見た、最大の確しき（他2点あり）
地域住民（コミュニティ）活動での支えあい事業が【時間】の受け渡しで継続して行くため、
会員数・会員の保有期間が増えるに促し、
【行政助成金】の負担が低減⇒【0】円へ！

【参加者個人】の立場から見た、確しき
(1) コミュニティ活動で貯めた【時間】を 相談・相談・贈与・換金 物販・サービスの購入 ができる ※上記条件

(2) 換金の場合は、第4の資産となり得る
ご関心・ご興味ある方は、ぜひともご連絡ください！よろしくお祈りします。
〒1-1 霧島 篠田 穂波
090-5115-9521
5565@me.style@gmail.com

スタートアップ 九州 に参加（2025/1）



2025/2から、『事業化のより深い広報活動』に着手
↓
【事業化にむけて、SNSの制作】に向けて学習中

